

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 たつの市立龍野小学校

① 学習指導案

プログラム	No.10 「校歌の風景を見つめてみよう」
単元名 (学習時間)	3年生⇒「学校のれきし なぞときたんてい」(全30時間) 4年生⇒「見にきて! 龍野感げき城」(全30時間) 5年生⇒「見て楽しむ 龍show you〜名物リポーターへの旅〜」 (全30時間) 6年生⇒「重伝建ってなんすか! 〜タイムトラベラーの私たちが教えます〜」(全30時間)
学習のねらい	本校の総合的な学習の時間の通称は「けいろうタイム」である。総合的な学習がはじまる3年生校歌の始まりが「鶏籠のみどり・・・」から始まることから、オリエンテーションで「『けいろう』とは何か」を問うことから、学習をスタートさせ、探究的な学習のイメージをもたせる。 4年生以上は、三木露風作詞の歌詞が各学年の「龍野学」とのつながりを表していることから、校歌の歌詞に関心をもたせ、そして、学年の探究テーマにそった探究的な学習を展開していく。
学習内容	1 オリエンテーション(校歌から鶏籠山を考える、単元名を決める) 2 見る活動(龍野城をはじめ、テーマとつながる建物や場所を見学する) 3 聞く活動(見学によってできた「問い」を調査する) 4 話す活動(対話を通して整理・分析し、伝えたい事柄を目的に応じて編集し、対象となる相手に合った伝え方で表現する)
参考資料 準備品 実施場所等	資料「たつのの今昔」〜鶏籠山のはなし〜 タブレット たんけんボードとワークシート 各教室 龍野城 重伝建地区 醤油資料館 聚遠亭 旧脇坂邸 武家屋敷資料館

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1 2~9	1【オリエンテーション】 校歌に注目し、まちを見つめる。	・校歌の歌詞から、ふるさとの風景に関心をもたせる。	☆主体的に学習に取り組む態度
10~20 21~30	2【見る活動】 まちを歩き、関心のある事柄を写真におさめる。 3【聞く活動】 図書資料や地域の先生への取材を通して疑問を解決する。	・自分なりに関心をもったことを中心にタブレットで撮影させるようにする。 ・個別の疑問や気づきをみんなで共有する時間をもち、ふるさとへの関心を広げる。	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現

4【話す活動】 伝えたいことを整理し、まちの施設に展示したり、直接話したりする。	・伝えたいことを整理し、スライドにまとめる。それを写真印刷し、まちに掲示する。	☆思考・判断・表現 ☆主体的に学習に取り組む態度
---	---	-----------------------------

<留意点>

歴史への関心を高めるには、特定の子の発言に注目するのではなく、自分なりの気付きや疑問から問いをつくるようにし、知的好奇心を大切にした展開を心がける。

② 事業実施報告書詳細

学校名 たつの市立龍野小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
各1時間	教室	校歌(1自然, 2場所, 3学校)が示す景色をイメージする。	校歌の1番にある「けいろうの緑・・・」という言葉から「鶏籠山」について理解をする。(3年) 4年生以上はオリエンテーションの最初に校歌をヒントに風景をイメージする。	
1時間	教室	校歌の2番にある「物産 富みて 誉あり」の歌詞が特産品の醤油醸造を示していることを学習する。(5年)		三木露風の頃も龍野地区は醤油づくりが有名だったことを理解する。
29時間	カラタチの垣根(学校) 三木露風(霞城館)	80歳になるお年寄りの子どもの頃にはすでにあった北原白秋にちなんで植えられたカラタチ。このカラタチには、アゲハの幼虫がたくさんいる。校内で飼育し、命の大切さに気付くとともに、カラタチのある景観を守る方法を考える。 また三木露風について調べている。 分かったことはカルタに表す。	 	理科の学習と関連付けて学んでいる。羽化の瞬間を見たり、成虫に餌やりをしたりすることで、小さな命への関心をもつとともに、カラタチもアゲハの命も守ろうとする気持ちが芽生えている。校歌から作詞者の三木露風の生い立ち等について関心をもち始めている。

		昨年の4年生の活動を受けて、さらに修正していく。「富士山づくり」の歴史を調べ、看板に表す。 地域の方を招いたカルタ大会を行う。遊ぶだけでなく、カルタを使った説明もする。 学校の歴史から味噌づくりへ。まちの糰店主さんが先生になり、みそづくりをする。 (3年生)		何気なくみていた岩石園への関心が高まる。カルタで伝えたい思いが増す。 参加者の皆様に、学びをいっしょけんめい伝えることで、さらに学校の歴史への関心を高めている。 まち探検と体験によりまちの歴史への関心をもつ。
29時間	教室 龍野城 武家屋敷 聚遠亭	龍野城、武家屋敷、聚遠亭など城主の脇坂氏とかかわる建物を見学する。 龍野城物語を6つの場面に分けて、人形劇としてのシナリオづくりをする。 学んだことを人形劇で紹介する。約400名に見てもらう。 中央公民館まつりにお城の秘密を紹介したパネルを出品する。 2月にお城を舞台にポスターセッションを行う。埋門、石垣、本丸御殿、狭間などの秘密を来訪者に伝える。 (4年生)		何気なく見ていた頃と異なり、龍野地区には、お城と関わる建物が多いことに気付く子が多い。コメントから歴史への関心が高くなったことが分かる。 観客に伝えたい思いが高まり、人形劇に自信をもって取り組む。拍手を受けてさらにやる気を増す。 他の出品作品と比べながら満足感をもつ。 来訪者との会話を楽しむ様子を、龍野城に関する知識が定着していることが分かる。

28時間	教室 龍野城 大正ロマン館 醤油資料館 重伝建地区の店	お城からの景色から龍野地区には醤油醸造の建物が多いことに気付く。そして、まちにある建物や資料館を見学する。また校歌2番が産物にかかわることを理解する。また醤油蔵を見学し、そのPRキャッチコピーを作成。 醤油調べをきっかけに、和菓子、糰子、砂糖などの店舗を取材。 応援パンフレットを作成するとともに、地域の方へのポスターセッションをする。 中央公民館祭りに皮革の端切れで作った作品を展示し、たつのの地場産業を紹介する。 重伝建地区のガイドとして、おすすめの店舗を応援パンフレットをもとに説明する。 (5年生)	     	歴史的な建物や蔵が醤油醸造と深く関わっていることを理解する。実際の醤油蔵を見学し興味関心が高まっている。 醤油調べから、さらに和菓子や糰子など重伝建地区の食への関心をもつ。 応援パンフレットを作成したことで、もっと応援したい気持ちが高まっている。 捨てればゴミも、作品化することで貴重だと感じる。また、PRする責任感が高まる。 自信をもって説明している様子や来訪者との会話を楽しむ様子から、意欲の高まりが分かる。
29時間	教室 重伝建地区 鶏籠山	江戸の街並み（重伝建地区）を歩き、その道はばや建物などが当時と同じであることに気付く。 まち並みのよさを地域に伝えたい思いをみんなで共有する。	 	いつも通っていたところが、まちなみのうち、「うだつ」や「むしこ窓」のような建築物を知ることによって、いっそう関心が高まっている。

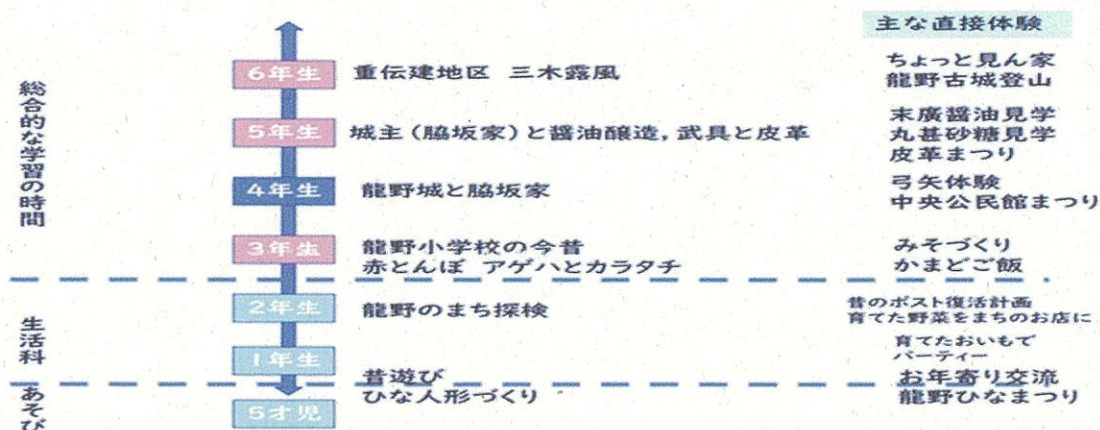
	応援動画を見せながら、地域の方がさらに興味をもったことを伝える。 鶏籠山の山頂にある龍野古城跡をガイドの話聞きながら見学する。下山後、龍野学の修了証書を受け取る。 (6年生)	 ショート動画が好評なことから自信をもって説明する。  古城当時の瓦を発見したことをきっかけに、当時の製法への関心が高まる。
--	---	--

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- ・三木露風作詞の校歌をもとに、三木露風から見た「鶏籠山」や「産物」に注目させる。
- ・常にお城を起点に景色を見ることで、脇坂氏と醤油醸造のつながりに気付けるようにする。

龍野学2024 構想図



龍野学のように、複数の学年がカリキュラムを組む場合、3年は理科(生き物)、4年は社会(まちの史跡)、5年は社会(地場産業)、6年は社会(歴史的建造物)のように、社会科や理科などの教科学習の内容と関連付けるとイメージしやすかった。

また、市や地域と連携した活動にすることで、ゲストティーチャーの確保ができ、体験的な活動のサポートもして下さることが多い。さらに身近な方からの褒めてもらえる機会にもなることから子ども自身の自己有用感の高まりが期待した。

(2) 実施にあたり苦労した点

- ・子どもの関心や既有知識に差があり、多くの子の知的好奇心に働きかける工夫をすることに力を入れている。地域の先生との調整には、少し時間がかかった。

(3) 児童の反応

3年生以上の子どもたちに、令和6年度の龍野学をふり返り、どんな力がついたと思うかをふり返ってもらった。130名の回答結果は次のとおり。問いをもつことが20.8%、調べることが26.9%、整理することが16.9%、伝えることが35.4%だった。

あなたにはどのような力が身に付きましたか。¿Qué competencias ha adquirido? What skills ha you acquired? 您培养了哪些能力

130件の回答



子どもたちが身に付いたと判断した理由にも注目してみた。少し紹介したい。

- ① 去年はスライドをまとめたり、コラボノートで文を書くのが苦手だったけど今年に入ってから、早く考えて打てるようになり、多い文章をかけるようになったと思ったからです。
- ② 私は、今まで人にちゃんと自分の言葉で伝えられなかったけど、今は、人にちゃんと自分の言葉で伝えられているから。
- ③ 龍野学をはじめる前は「なぜ?とか別にええやん」と思っていました。でも、龍野学をはじめてから「なぜ?」が何なのかもっと調べたい!と思ったからです。
- ④ 勉強をしていくうえで一つの「なぜ」が出てきて、調べてそのなぜが解けた時にその解けた「なぜ」の中にも「なぜ」があったから、たくさんの「なぜ」がもてました。
- ⑤ 龍野についてわからなかったこともわかって、説明できるようにもなったことで、もっと龍野のことについて知りたいです。理由は龍野の謎を探れば探るほどおもしろいと思ったからです。
- ⑥ もっと良くなりたいところは、なぜこうなったんだろう、なぜだろう、という問いを持って勉強して更に深く勉強したいです。なぜなら、興味を持って勉強や物事に取り組むと、そのわかったことも頭に入るし、知りたかったこともわかって楽しい勉強になると思ったからです。だから「なぜ」という問いを持ちたいです。
- ⑦ 前までは調べようとするするとすぐ後回しにしたり後でやればいいみたいにすぐ後回しにする心があったけど今はなにか調べたいことがあったらすぐに調べる力がついたと思います。

今年のふり返り記述は、①②③⑦のように、自分のよくなったところに気付いた内容が多

く見られた。一方で、④⑤⑥のように、探究的な学習の本質に気付いた記述も多かった。これは、子どもたちが龍野地区にある歴史文化資源を教材として学び続けた「探究的な学習」だからこそ、自己の成長と探究することのおもしろさに気付けたのだと判断する。地域の先生として多くの皆様のご支援が、子どもたちの自己肯定感と学ぶ楽しさを高めたことに、うれしさでいっぱいである。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・令和6年度の取組を終えて、さらに自らも学び続けようとする思いが高まっている。何よりまちの歴史文化資源への関心が高まっている様子が伝わる。
- ・令和6年度は、T1を教頭が担い、担任がT2を担うチーム・ティーチングで支援し、学習支援への見通しをもてたことで、龍野学を継続しようとする思いになっている。自らも学び続けようとする思いが増したことは、今後の学習指導にいきるはずである。

(5) 今後の課題と取り組み（児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等）

今年度（令和6年度）は11月30日の開校150周年式典の第1部で全校の子どもたちが学んだことを発表した。地域の方が400名訪問してくださった。3年生はカルタで、4年生は人形劇で、5年生は情報冊子で、6年生はショート動画で表現したものを紹介できた。

来年度も龍野学を継続する予定である。関わる教員もメンバーが変わるが、子ども一人一人の知的好奇心を高めたい思いをもっている。ゲストティーチャーとして関わっていただく地域の先生との打ち合わせが鍵をにぎる。